



平成30年度  
バンドフェスティバル東京都大会を終えて

水元

学年	6年	楽器	チューバ
----	----	----	------

本番前...「大丈夫かな。」私の中で不安がおしよせてま  
した。私にとって最後のコンクール。さんちゅうでおしよぶそれ  
しうで。なんとか演えうでました。演えう中は曲の事で頭が  
まいてよくおぼえていませんが演えうが終わると気がぬ  
けておむけがおそてきました。よほど気がはっていったん  
と覚えました。そしてついに結果発表。さきまでのおむけ  
が消え、いっせにさんちゅうが指ささまてにほこはし  
てきました。結果は金賞。てけが全国大会出場なうす。  
涙をさうえ表しう式をおえるとそのとれん涙が一つば  
一つと流れおちてきました。この悔しうはおすれるこ  
とかな。だろうと思ひます。この悔しうをかてにこは  
いおすに。なにかこの悔しうをくつかえせるような  
事をしひて。



平成30年度  
バンドフェスティバル東京都大会を終えて

水元

学年	6年	楽器	アルホルン	氏名
----	----	----	-------	----

夕方5時、学校に集まり皆結果が来るのを待つ。そして5時11分、親の携帯にメールが届き、僕が皆に発表するために見た内容……それは「金 全国行ったのは明治 富エ 双葉」 悔やしかった。ただ悔やしかった。自分の中で、大会の演奏は上手くいったと思った。しかし僕たちの夢であり目標である全国大会に出場することができなかつた。そう思ったとたん、自分を恨んだ。本番のミスで全国大会の出場を逃したといか思えなかつた。しかし、コンクール前日までの練習の記憶を辿ってみると悪いものではなかつた。

寧ろ良かったと思う。金管バンドのメン  
バーと、そして先生方との毎日は充実してい  
た。コンクールに向けての練習は音楽の練習  
だけではない。朝練習は早起きをする  
練習になる。登校してから準備をし、  
音を出すために、急に皆で協力し準備を  
する。これは集団という良さだと思える。考え  
てみれば、これらは、地域の中学校の先  
生方、そして保護者の皆様の協力を元に行  
っている。結果以前に、金管バンド  
を支えてくれて来た人に、感謝の気持ちを  
十分に込め、申し分のない演奏をすることが  
大切で、今回これらの気持ちを持ち演奏する  
ことができた。来年、僕は中学校でいいが、来年こそ  
全国に行ってほしいと思う。

氏名



平成30年度  
バンドフェスティバル東京都大会を終えて

水元

学年	6年	楽器	アルトホルン	氏名
----	----	----	--------	----

私は今日のバンドフェスティバル東京都大会を終えて、結果は「金賞」でした。でも全国大会には行くことができませんでした。でも私は「金賞」をとれただけでもうれしかったです。全国大会には行けなかったけど、今日まで練習してまた夏休みのはじめ、一生忘れることのない思い出になりました。そして、今日は私たちが6年生にと、最後のコンクールでした。自分のできることを精一杯やることを目標にし、楽しくえんどうをすることからできて良かったです。今までのコンクールの中で一番楽しかったコンクールにできて良かったです。また、来年は「金賞」をとって

て「全国大会」に行、てほしいと鬼

ました。

氏名



平成30年度  
バンドフェスティバル東京都大会を終えて

水元

学年 6年 楽器 トランペット

「東陽小学校 金賞 で全国大会出場は  
明治小・富士小・双葉小」

と、会場で結果発表を聞けないうか、

音楽室で部長の言葉で告げられた。私の

小学校生活最後のコンクール、全国大会

に行けず終わった。「全国大会に行き、金

賞を取る」という夢は、叶わなかった。

本当に悔しい。あと一歩だったと思う。けれど

私は、満足感と達成感がある。確かに

本番でミスしたところもあるが、全力を出しき

れた。ことには全く悔いがない。私達が、朝

も夕方も一生懸命練習した結果が、金賞で

全国出場できず、ということなのだから。

それを受けとめ、東陽小金管バンドが、  
一歩ずつ前進することが今できるこ  
とだと思おう。そして、今までずっと支えて  
くださった方々に感謝の気持ちを込めて、

これから私達の演奏を届けたいと思おう。  
来年は必ず一昨年の奇跡を東陽にまた  
読み返らせてほしい。私は、何もできな  
いけれど、今の4、5年生を育て貢献した  
いと思おう。来年こそは、

金賞を取り、

全国大会へ

氏名



平成30年度  
バンドフェスティバル東京都大会を終えて

水元

学年	6年	楽器	トランペット
----	----	----	--------

今年のコンクールは、私にとって最後のコンクールだった。私が4年の時、金賞だけでもうれしかったのに、なんと全国大会に出場することになった。初めてのコンクールがあまりにも結果がすごすぎて、この時の私は、コンクールをもっと甘いものだと思っていた。5年の夏、改修工事で学校が使えず、いろいろな学校も使わせてもらってばかり練習した。その年のコンクールの結果は銀賞。さすがに私も、混をたがさおにはいられなかった。去年の六年生に申しわけない気持ちと共に、初めてコンクールの厳しさを知った。そんな2年間を過ごしてわかった、6年生最後のコンクール。正直、舞台にあがった時、きんちょうせおにはいられなかった。今までやった事



が本当に本当でたせるだろうか。テンポがめちゃ  
くちゃにたふらないか。大事なリロの場面で音をは  
かさないだろうか。私の心の中は不安でいっぱいだった。  
そんな気持ちの中おかえた本番。相手の音を  
よく聞き、そして合わせる。つまり『合奏感』を、ともか  
く大切に吹いた。そしてその結果は... たふんと  
**ゴールド金賞!!** まさか金賞がとれるなんて、正直思  
っていませんでした。しかし、残念ながらも全国大会に出  
るという夢ははたせました。うれしい気持ちと  
くやしい気持ちがまじりあった。たふんとも複雑な  
気持ちで今、この文章をかいている。たふによりも、  
4年、5年生たちに全国大会に行かせてあげられ  
たのが、とても申しわけない。来年のコンクール  
には私はいけないけれど、残り半年間、この金管の  
メンバーが楽しく過ごしていきたいと思います。

氏名



平成30年度  
バンドフェスティバル東京都大会を終えて

水元

学年 6年 楽器 トンボーン

ぼくが金管に入った理由は2つあります。1つ目は、金管バンドのみんなで大坂に行きたいと思ったから。2つ目は、金管バンドの演奏を聞いて、楽しかったからです。そして毎日の練習し、みんな不満を抱えていました。そして今日、本番がむかえてきました。ほかの学校の演奏を聞き、「行ける」と言う人と「行けない」という人が分かれていました。そして東陽小の演奏が初まりました。演奏中練習のときとはちから楽しさのまま演奏が終わりみんな全国に行けることを願いました。

そして、結果発表のとき、金賞  
と聞いたとき、思わず「喜んだがまだ  
糸冬わりではな。そして、全国行き  
の学校を発表したとき「東陽小」と言  
う声が聞えなかつたとき、ないて  
いる人が言っている人などた  
しさんいた。でもぼくはいい演奏だ  
と思いました。この気持ちで、来年  
再来年と、毎年のいい演奏をして  
ほしいと思いました。

氏名



平成30年度  
バンドフェスティバル東京都大会を終えて

水元

学年	6年	楽器	ユーフォニアム
----	----	----	---------

今年、学校生活最後のインクルでした。はじめこのソロがあったり、今年自分がかい6年だというプロレッシャーの二つかいのしかか、てまことも心配でした。結果は、金賞でしたが全国大会にはいけませんでした。とても悔しいけれど自分の中では精一はいい演奏できたと思います。来年はいたいけれど元夏夏ってほしいと思います。